

# 東吾妻町第2次総合計画

## 住民が誇りを持って暮らすまち

東吾妻 きみと あなたと



東吾妻町マスコット  
「水仙ちゃん」



東吾妻中学校の生徒達

群馬県 東吾妻町



# 町長あいさつ



平成18年の町村合併で誕生した東吾妻町は、平成20年4月に新たなまちづくりの指針となる第1次総合計画を策定し、その実現に向けた取り組みを進めてまいりました。

現在、我が国の中山間地域の自治体では、少子高齢化による人口減少やそれに伴う地域コミュニティ機能の低下、加えて自然災害への備えや地域経済の維持など、急速な時代の変化とともに様々な課題が山積しています。当町も同様で、人口減少は最も深刻な課題となっています。

これらのことと背景に、今後ますます多様化・複雑化する住民のニーズや行政課題を踏まえたまちづくりの最上位計画として、『東吾妻町第2次総合計画』を策定いたしました。

第2次総合計画は、今後10年間の東吾妻町をどのような町にしていくのか、そのためにはどのようなことをしていくのかを総合的・体系的にまとめたものです。

計画策定にあたっては、町民の皆さんと一緒に「あるべき町の姿」を描くため町民アンケートを実施し、公募委員をはじめ町民代表や学識経験者等の委員で構成する総合計画審議会によりご審議をいただきました。計画書の案にはパブリックコメントも実施し、議会の議決を経る中で、町民と行政の”協働”による計画づくりを進めました。

そして第1次総合計画の理念を継承する形で、目指す将来像を『住民が誇りを持って暮らすまち』～東吾妻　きみと　あなたと～と定めました。この副題には東吾妻中学校の校歌の一部を用いています。町の未来を担う子ども達へのメッセージであるとともに、町民一人ひとりが地域の課題を自分のこととして捉え、まちづくりの一役としてそれぞれ活躍していただける合い言葉としたいと思います。皆さんと力を合わせ本計画の目標達成に向け邁進いたしますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、計画策定にご尽力いただきました関係各位に心から御礼を申し上げます。

東吾妻町長　中澤　恒喜



# 議長ごあいさつ



東吾妻町第2次総合計画書の発刊に際し、議会を代表してご挨拶を申し上げます。

この第2次総合計画は、2018年度から2027年度の10年間を計画期間とし、まちの総合的かつ計画的な行政運営の指針を示すと同時に、住民と行政が共有すべきまちづくりの長期的な展望を示す最上位計画として平成30年第1回定例会に執行部より提案され、慎重なる審議を経て原案どおり議会で議決されたものです。

総合計画が議会の議決を経て策定されることは、二元代表制の一翼である議会が総合計画に基づくまちづくりにおいて、町の政策形成過程や実施過程に多面的に参画し監視や評価を行うとともに、時には自ら政策立案や政策提言も行いながら、住民福祉向上のため、要所において重要な意思決定を行う責務を有していることを強く意味しております。

第1次総合計画における様々な施策の検証・評価・見直しを経た上で、この度の第2次総合計画にはその理念と町の将来像が継承されておりますが、私たちを取り巻く社会情勢・社会環境は10年前とは大きく変化し、特に本町のような中山間地域の自治体においては、少子高齢化と人口減少への対応が喫緊の課題となっております。

少子高齢化問題や人口減少問題は本町のみならず全ての自治体共通の問題であり、限られた人口を自治体間で奪い合うために、まちづくりを競い合う時代になったとも言われておりますので、本町の魅力を最大限に生かした特色ある施策の推進が期待されています。

今後、八ッ場ダムの完成や上信自動車道の開通など、まちづくりにとって大きな契機が訪れます。議会といたしましてもこの機会を積極的に捉え、誇りを持って暮らす住民のもとに、本町に魅力を感じて移住・定住する方々を多く迎え入れ、東吾妻町が今日よりも素晴らしい町となるよう、住民一人ひとりの声を大切にしながら、その責務を果たしてまいります。

結びに、本計画策定にあたりご尽力を賜りました関係者各位の多大なるご労苦に対し、深甚なる敬意を表しご挨拶といたします。

東吾妻町議会議長 浦野 政衛



# 目 次

## 第1部 序論

<b>第1章 計画の策定にあたって</b>	<b>02</b>
1－1 策定の趣旨 .....	02
1－2 計画の性格と役割 .....	02
1－3 計画の構成と期間 .....	03
1－4 計画の進行管理 .....	04
<b>第2章 計画策定の背景</b>	<b>05</b>
2－1 東吾妻町の現状 .....	05
2－2 住民意向の概要 .....	09
2－3 社会の潮流と東吾妻町の主要課題 .....	16

## 第2部 基本構想

<b>第1章 東吾妻町の将来像</b>	<b>20</b>
1－1 目指す将来像 .....	20
1－2 人口の将来展望 .....	21
1－3 財政の将来推計 .....	22
1－4 土地利用方針 .....	23
<b>第2章 政策の大綱</b>	<b>24</b>
2－1 まちづくりの基本目標 .....	24
2－2 施策の体系 .....	25

## 第3部 前期基本計画

<b>第1章 重点施策</b>	<b>28</b>
<b>第2章 分野別計画</b>	<b>33</b>
<b>基本目標1 みんなで創る協働のまち 【住民と行政の協働】</b>	<b>33</b>
1－1 住民と行政の協働の推進 .....	34
1－2 情報公開・情報共有の推進 .....	36
1－3 人権尊重・男女共同参画社会の実現 .....	37
<b>基本目標2 安全で暮らしやすいまち 【社会基盤の整備】</b>	<b>39</b>
2－1 道路交通網の整備 .....	40
2－2 住環境の整備 .....	42
2－3 公共交通体系の強化 .....	44
2－4 情報通信基盤の整備 .....	46
2－5 防災・防犯・交通安全対策の推進 .....	48

# 目 次

<b>基本目標3 自然と調和した暮らしができるまち 【生活環境の向上】</b>	<b>51</b>
3－1 低炭素・循環型社会の構築 .....	52
3－2 自然環境の保全と活用 .....	54
3－3 水の安定供給と汚水処理の適正化 .....	56
<b>基本目標4 地域の恵みを活かした活力あるまち 【産業の振興】</b>	<b>59</b>
4－1 農林水産業の振興とブランド化の推進 .....	60
4－2 観光基盤・ネットワークの整備 .....	62
4－3 商工業の振興 .....	64
4－4 新産業の創出と雇用の促進 .....	66
<b>基本目標5 元気な声と笑顔があふれるまち 【保健・医療・福祉の充実】</b>	<b>69</b>
5－1 健康づくりの推進 .....	70
5－2 地域医療体制の充実 .....	72
5－3 高齢者福祉の充実 .....	74
5－4 障害者福祉の推進 .....	76
5－5 地域福祉の推進 .....	77
5－6 子育て支援の充実 .....	78
<b>基本目標6 豊かな心を育む学びのまち 【教育・文化の充実】</b>	<b>81</b>
6－1 生涯学習・生涯スポーツの推進 .....	82
6－2 学校教育の充実 .....	84
6－3 歴史的・文化的資産の保存と継承 .....	86
6－4 歴史・文化の発信と交流の拡大 .....	88
<b>基本目標7 健全財政に向け徹底した改革に取り組むまち 【行財政改革の推進】</b>	<b>91</b>
7－1 町財産の適正管理 .....	92
7－2 効率的な組織運営の推進 .....	94
7－3 広域行政の推進 .....	96

## 別冊【資料編】目録

- 1 第2次総合計画の策定経過
- 2 総合計画策定委員会の組織体制
- 3 総合計画審議会の委員名簿
- 4 総合計画審議会への諮問
- 5 総合計画審議会からの答申
- 6 町民アンケート調査報告書
- 7 住民ワークショップ実施報告書
- 8 関係団体及び民間事業者等ヒアリング実施報告書
- 9 中学3年生「総合的な学習の時間」との連携報告書

# 1

## 第1部 序論

# 第1章 計画の策定にあたって

## 1－1 策定の趣旨

わたしたちのまち東吾妻町（以下「本町」という。）は、平成18（2006）年3月27日に東村と吾妻町の合併によって誕生し、12年が経過しました。

この間、平成20（2008）年4月に議会の議決を経て「第1次総合計画（計画期間 平成20（2008）～平成29（2017）年度）」を策定し、目指す将来像を「住民が誇りを持って暮らすまち」と定め、その実現に向けたまちづくりに取り組んできました。

一方、わが国では人口減少や少子化・高齢化の進行により、人口構成が急速に変化しており、本町でもその影響は大きく、地域の社会構造にまで及び始めています。

また、地球環境やエネルギー活用について住民の意識が高まる中、自然災害などのリスクへの対応の必要性が増しており、地域全体での危機管理意識の共有が必要となるなど、本町を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような環境の変化に対応し、より暮らしやすく、将来に向けた発展を続けられる自立したまちをつくるためには、地域の個性や資源を最大限に活用するとともに、まちの課題を住民と行政の協働によって解決する仕組みづくりや、社会経済情勢に即した主体的な政策展開を可能にする行政経営能力の向上をさらに進めていくことが必要です。

「東吾妻町第2次総合計画」（以下「本計画」という。）は、これらのことと背景に、まちの総合的かつ計画的な行政運営の指針を示すと同時に、住民と行政が共有すべきまちづくりの長期的な展望を示す「最上位計画」として策定するものです。

## 1－2 計画の性格と役割

本計画は、今後の町政運営の羅針盤として、以下の4つの役割を担う計画とします。

役割1 住民と行政が協働で取り組むまちづくりの「手引書」です。

役割2 まちの魅力とブランド力を高めるための計画です。

役割3 持続可能な地域経営を進めるための「行政経営指針」です。

役割4 国や県、他の自治体などと連携や交流を深めるための計画です。

# 1 – 3 計画の構成と期間

本計画は、**基本構想、基本計画、実施計画**の3層で構成します。

## (1) 基本構想



基本構想は、本町の特性や住民の意向、社会の動向等を総合的に勘案し、まちの将来像を示すとともに、それを実現するための政策の大綱を明らかにするものです。

計画期間は、2018年度を初年度とし、2027年度を最終年度とする10年間の長期構想とします。

## (2) 基本計画



基本計画は、基本構想実現のため、分野別に取り組むべき施策の方針や展開等を示すものです。社会経済情勢の変化等に対応するため、前期と後期で策定します。また、施策分野の枠組みを越えた総合的かつ横断的な重点施策を設定します。

計画期間は、前期基本計画が2018年度から2022年度まで、後期基本計画が2023年度から2027年度までのそれぞれ5年間とします。

## (3) 実施計画



実施計画は、基本計画で示した各施策の具体的な事務事業を財源等の見通しを立てながら計画的に進めるためのものです。各年度の予算編成の指針となります。

計画期間は、行政運営の機動性・柔軟性を確保するため、3年間とし、毎年度見直しや修正を行うローリング方式により運用します。

本計画の計画期間

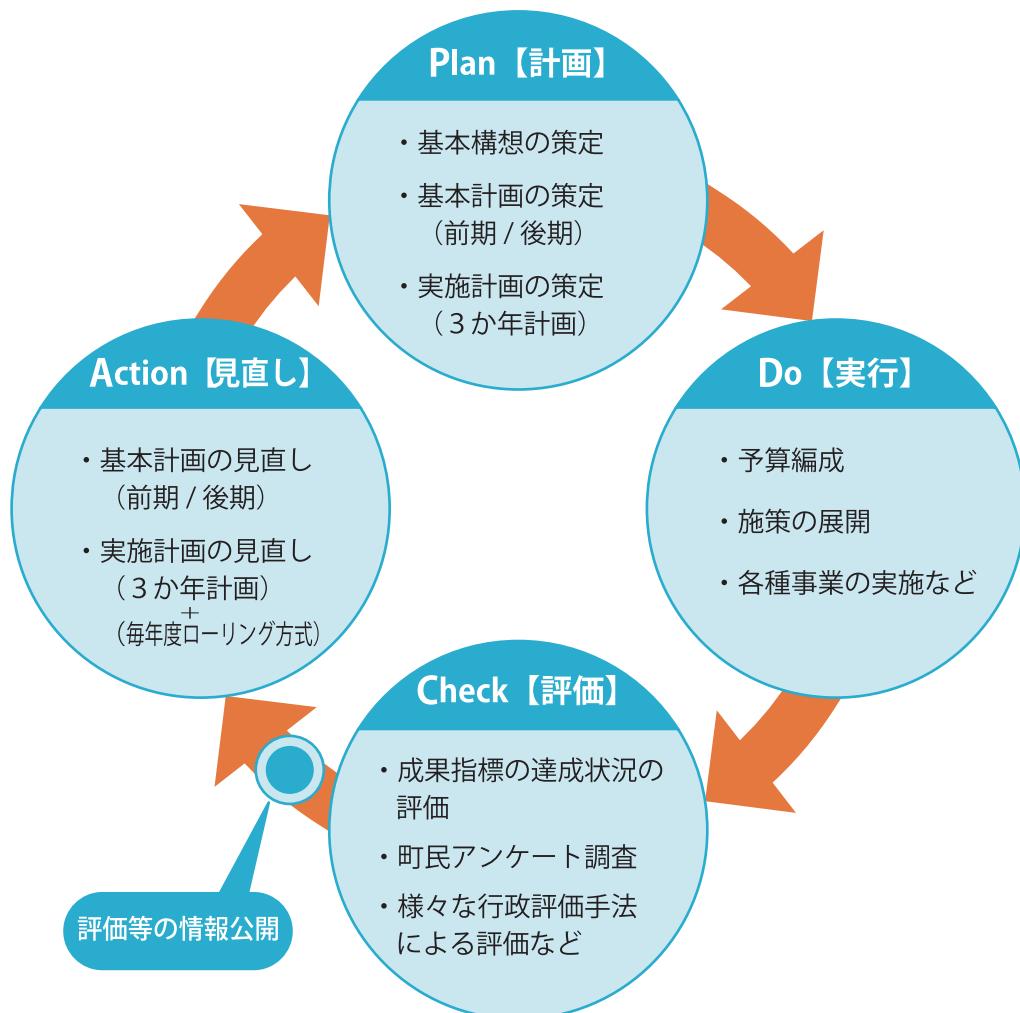
年 度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
基本構想	10年間									
基本計画	前期計画 5年間						後期計画 5年間			
実施計画	3年間						3年間			
	3か年計画を毎年度策定（ローリング方式）									

## 1 – 4 計画の進行管理

社会経済情勢が目まぐるしく変化する中、限られた財源のもとで、効果的・効率的に本計画を推進するためには、継続的な改善や見直しを行うとともに、進行状況を住民に分かりやすく公表し、住民と行政が課題を共有する必要があります。

そのため、本計画の進行管理にあたっては、「計画（Plan）」に基づく施策や具体的な事業の確実な「実行（Do）」、成果指標の達成状況の「評価（Check）」、次の実行（Do）に向けた「見直し（Action）」のPDCAサイクルの手法による、行政評価を踏まえた進行管理を行い、優先度の精査や重点化を図りつつ、効果的・効率的な運用に努めます。

また、「評価（Check）」については、住民の参画による外部の視点を踏まえた仕組みを構築するとともに、広報紙やホームページなど様々な手段による情報公開等に努めます。



# 第2章 計画策定の背景

## 2-1 東吾妻町の現状

### (1) 位置・地勢

本町は、群馬県の北西部に位置し、隣接する中之条町や長野原町など周辺6町村で吾妻郡を形成しています。本町の総面積は253.91km<sup>2</sup>、東西約28km、南北約16kmで、前橋市中心部からは約40km、東京都心からは約170kmの距離にあります。

周囲には上毛三山のひとつ榛名山や浅間隠山など標高1,000m以上の山々が連なっています。また、歴史にその名を遺す岩櫃山が市街地を見下ろし、特徴的な風景をつくっています。山々は豊かな水をもたらし、環境省の名水百選に選定された箱島湧水や、名勝吾妻峡を有する吾妻川などの美しい景観をつくっています。

鉄道は、東に隣接する渋川市の渋川駅と嬬恋村の大前駅をつなぐJR吾妻線が通り、群馬原町駅、郷原駅、矢倉駅、岩島駅の4つの駅があります。

主要道路は、国道145号、406号が通り、各方面から県道が接続しています。

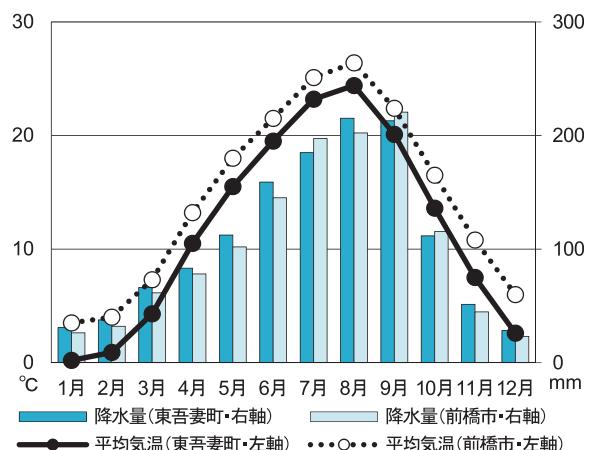
高速道路は、渋川市の関越自動車道・渋川伊香保インターチェンジが最寄りとなっていますが、渋川伊香保インターチェンジ付近から本町を通り長野県の上信越自動車道に向かう地域高規格道路として、総延長約80kmの上信自動車道の整備が進んでおり、この開通による高速道路へのアクセス性や利便性の向上が期待されています。



### (2) 気候

本町は、標高差が大きく、地形が複雑なため、地域による差はありますが、昭和56

(1981)～平成22(2010)年までの30年間の平均を見ると、年間を通して比較的過ごしやすい気候となっています。前橋市と比較すると、平均気温は年間を通して本町が3°C程度低く、降水量は同程度となっています。



※東吾妻町の値は中之条観測所、前橋市の値は前橋地方気象台  
資料：気象庁

### (3) 沿革

明治 22（1889）年、「明治の大合併」により、東村、原町、太田村、岩島村、坂上村が誕生しました。昭和 30（1955）年、

「昭和の大合併」により、原町、太田村、岩島村、坂上村が合併して原町が誕生し、昭和 31（1956）年、吾妻町へ町名変更しました。

その後、「平成の大合併」により平成 18（2006）年に東村と吾妻町が合併し、東吾妻町が誕生しました。



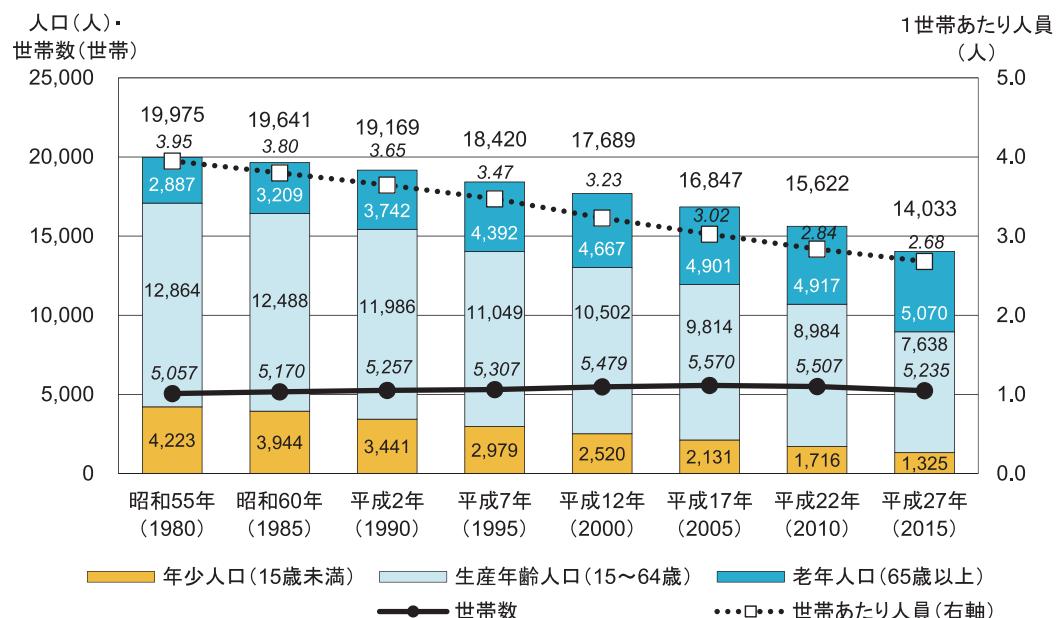
現役場本庁舎

### (4) 人口・世帯

人口は昭和 55（1980）年の 19,975 人から平成 27（2015）年の 14,033 人へ、35 年間で約 3 割減少しています。

人口を年齢別に見ると、昭和 55（1980）年以降、年少人口（15 歳未満）、生産年齢人口（15～64 歳）は減少、老人人口（65 歳以上）は増加しています。老人人口が総人口に占める割合は平成 27（2010）年で 36.1% となっており、全国の 26.6%、群馬県の 27.6% と比較して高い割合となっています。

世帯数は、昭和 55（1980）～平成 17（2005）年まで増加していましたが、平成 22（2010）年から減少に転じています。また、1 世帯あたり人員は年々減少しています。平成 27（2015）年では 1 世帯あたり 2.68 人となっており、単身世帯や少人数世帯が増加していることがうかがえます。

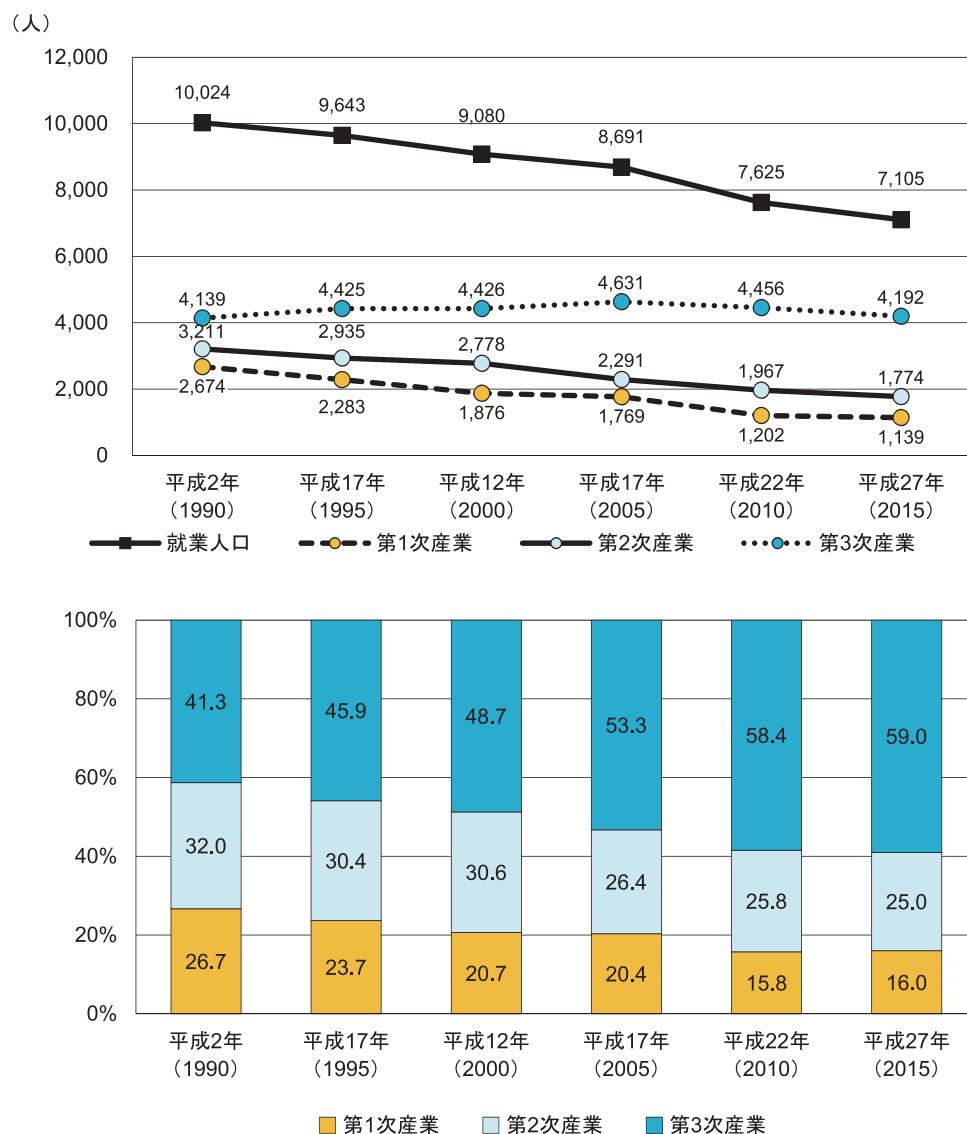


資料：国勢調査

## (5) 産業別就業人口

就業人口（15歳以上）は平成2（1990）年以降、年々減少しており、第1次産業<sup>\*1</sup>、第2次産業<sup>\*2</sup>も減少しています。一方、第3次産業<sup>\*3</sup>は平成17（2005）年まで増加していましたが、平成22（2010）年からは減少に転じています。

就業人口に占める各産業の割合を見ると、第3次産業が年々増加していますが、平成22（2010）年、平成27（2015）年は同程度で推移しています。



\*1 第1次産業：農業、林業、水産業などを指す

\*2 第2次産業：鉱工業、製造業、建設業などを指す

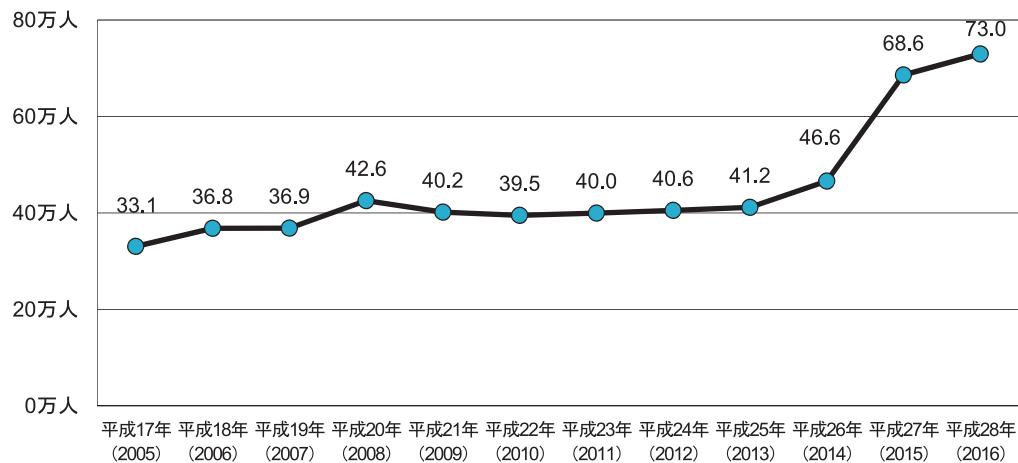
\*3 第3次産業：金融、保険、卸売業、小売、サービス業、情報通信業などを指す

※産業別就業人口は、「分類不能の産業」を除く

資料：国勢調査

## (6) 観光入込客数

主要な観光地点や観光行事の観光入込客数は、近年 40 万人前後で推移していましたが、NHK 大河ドラマ「真田丸」放映の前年にあたる平成 27（2015）年に約 70 万人に急増し、平成 28（2016）年はさらに増加しています。



※平成 24（2012）年までは年度値。2013 年より暦年値

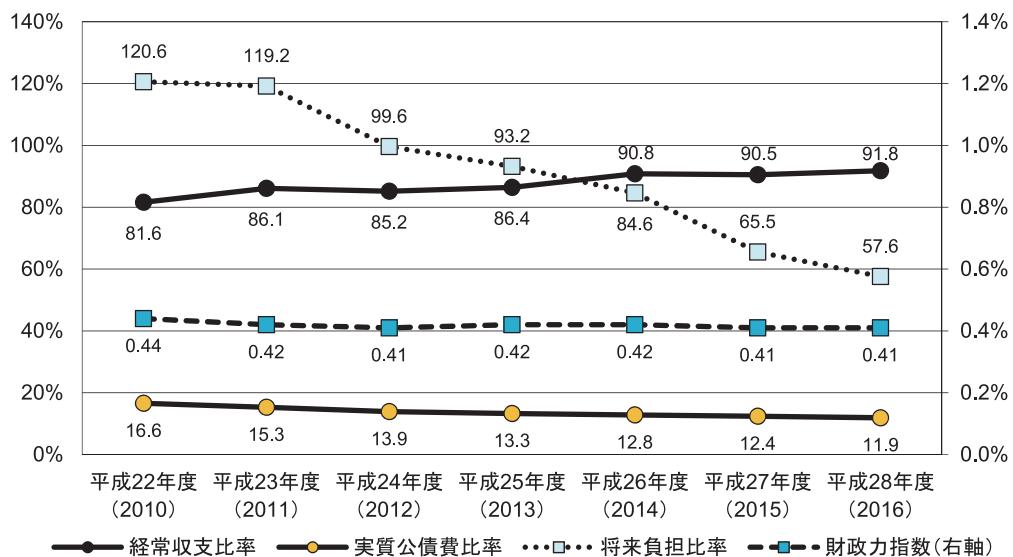
資料：観光客数・消費額調査（推計）結果（群馬県観光局観光物産課）

## (7) 財政

経常収支比率<sup>\*1</sup>は、わずかながら年々高くなっています。平成 26（2014）年度以降 90% 以上となっています。

実質公債費比率<sup>\*2</sup>や将来負担比率<sup>\*3</sup>は、年々低くなっています。

財政力指数<sup>\*4</sup>は、平成 22（2010）年度以降、同程度で推移しています。



\* 1 経常収支比率：財政の弾力性を判断する指標。比率が低いほど弾力性が高い

\* 2 実質公債費比率：一般会計等が負担する元金および利息返済額の標準的な財政規模に占める比率

\* 3 将来負担比率：一般会計等が将来負担する負債の標準的な財政規模に占める比率

\* 4 財政力指数：財政力を示す指標。1 に近いほど、あるいは 1 を超えるほど財政力が高い

資料：財政健全化法に基づく指標、市町村別財政指標一覧（いずれも群馬県市町村課）

## 2－2 住民意向の概要

まちづくりに関する住民の意見や評価、関与の意向などを把握し、本計画に反映するために、「町民アンケート調査」「住民ワークショップ」「関係団体・民間事業者等ヒアリング」を実施しました。

以下にそれぞれの概要を示します。

### ① 町民アンケート調査

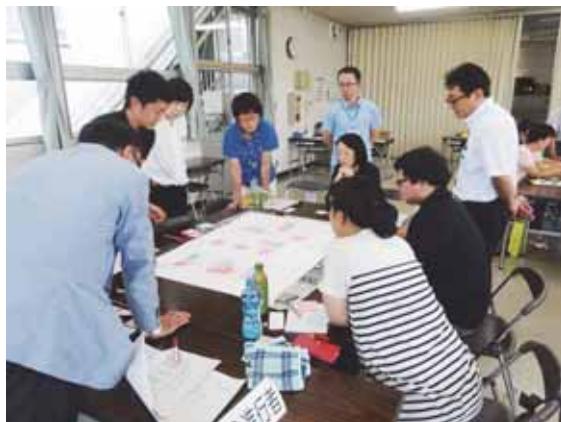
調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の町民 1,800 人
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
調査期間	平成 29 (2017) 年 6 月 16 日～7 月 3 日
回収数(n)	876 人 (回収率 48.7%)

### ② 住民ワークショップ

参加者	総合計画審議会公募委員、地域おこし協力隊員*・移住相談員、町役場若手職員等 26 人
実施日時	平成 29 (2017) 年 8 月 29 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
実施会場	役場本庁舎 大会議室

### ③ 関係団体・民間事業者等ヒアリング

調査対象	町内で事業を展開する各種団体、企業・事業所などから抽出した 45 者
実施方法	郵送によるヒアリングシートの配布・回収
実施期間	平成 29 (2017) 年 8 月 8 日～8 月 31 日



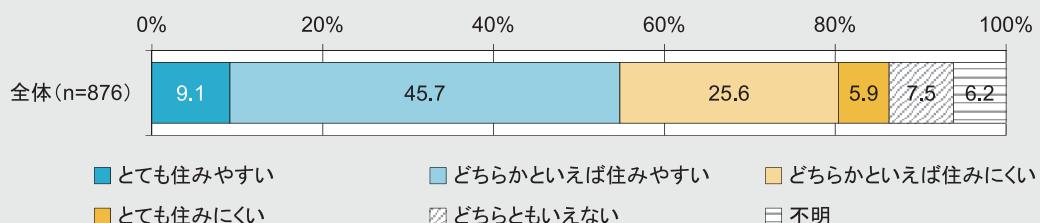
住民ワークショップ：共通テーマ「まちの魅力とブランド力を高める」と 3 つのキーワード【自然资源】【福祉資源】【教育資源】を設定し、班別に意見を出し合いました。

\* 地域おこし協力隊：都市部等の地域外の人材を地方の新たな担い手として受け入れ、国から生活費などの支援を受けながら、おおむね 1 年以上 3 年以下の期間、地域活性化に向けた各種の支援活動等に従事し、あわせて定住・定着を図る制度

## (1) 町民アンケート調査

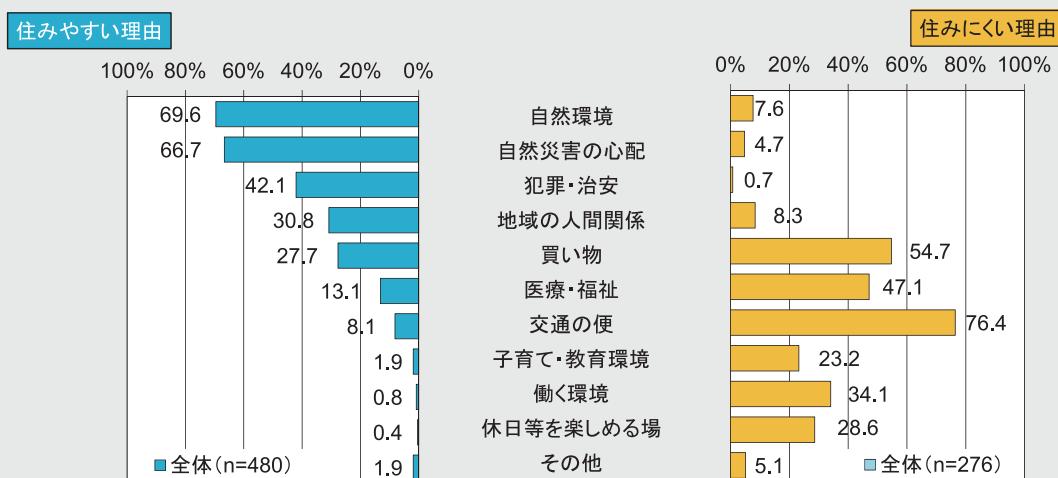
### ①-1 東吾妻町の住みやすさ (1つに○)

・「どちらかといえば住みやすい」(45.7%)が4割以上で最も高く、「とても住みやすい」(9.1%)を合わせた『住みやすい』(54.8%)は5割以上、「どちらかといえば住みにくい」(25.6%)と「とても住みにくい」(5.9%)を合わせた『住みにくい』(31.5%)は3割以上となっています。



### ①-2 住みやすい理由・住みにくい理由 (1つに○)

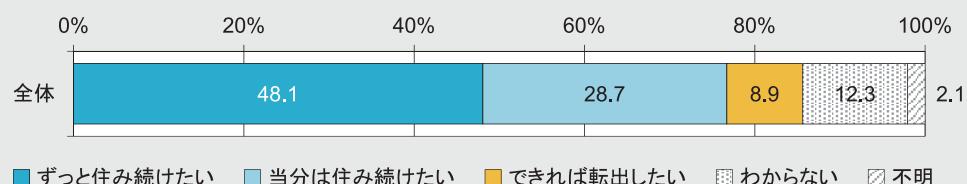
- ・「住みやすい」理由は、「自然環境が良い」(69.6%)、「自然災害の心配が少ない」(66.7%)の2項目が約7割で特に高く、次いで「犯罪が少なく治安が良い」(42.1%)が4割以上となっています。
- ・「住みにくい」理由は、「交通の便が悪い」(76.4%)が7割以上で特に高く、次いで「買い物が不便」(54.7%)、「医療・福祉が充実していない」(47.1%)が約5割となっています。



※「住みやすい理由」は①-1で「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」、「住みにくい理由」は①-1で「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答した場合のみ

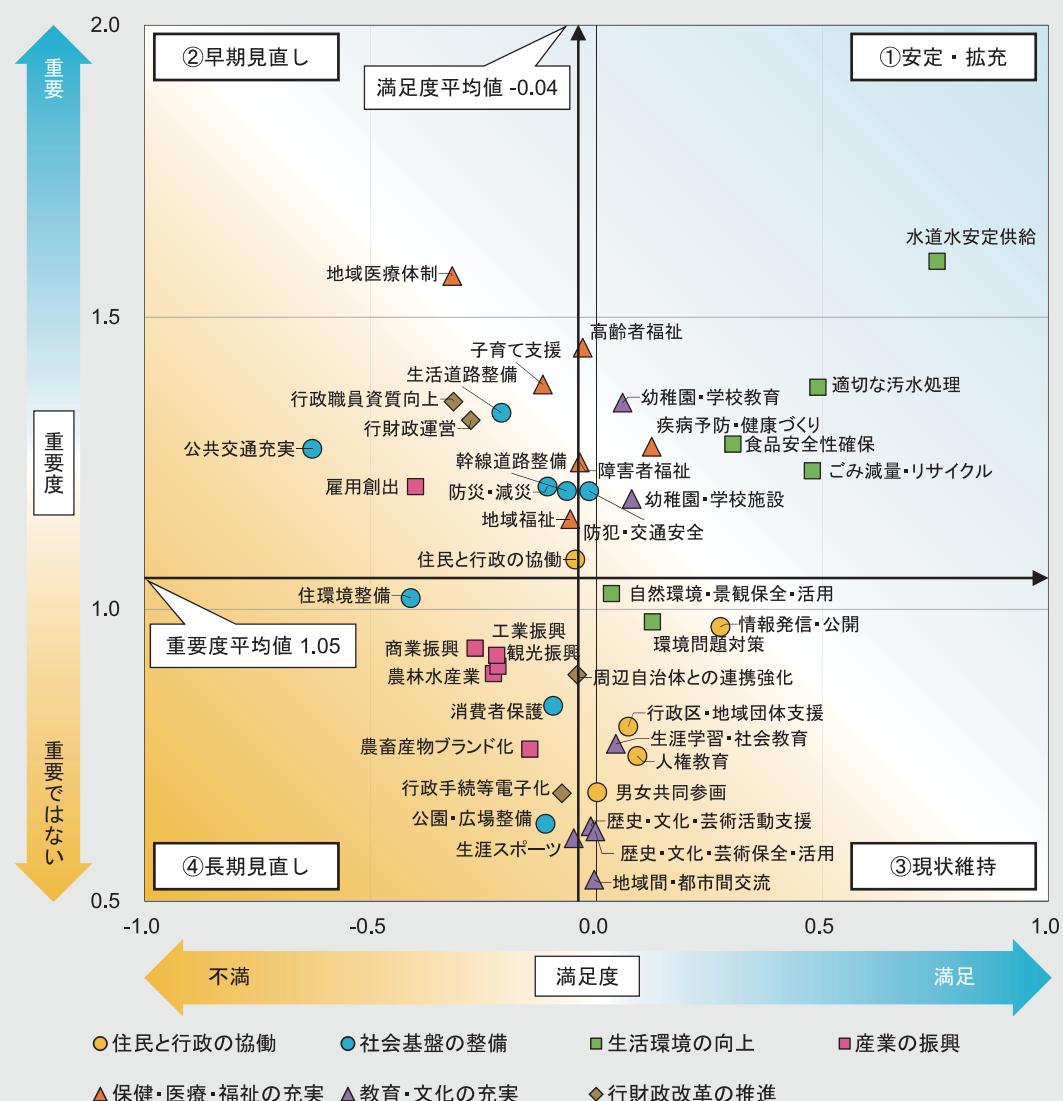
### ② 東吾妻町での定住意向

- ・「ずっと住み続けたい」(48.1%)が約5割で特に高く、次いで高い「当分は住み続けたい」(28.7%)を合わせた『住み続けたい』(76.8%)は約8割となっています。



### ③ 町が現在取り組んでいるまちづくりの施策の重要度・満足度（5段階評価）

- 42施策それぞれの「重要度」「満足度」（加重平均値\*）について、重要度が高い一方、満足度が低く、緊急性が高い『早期見直し』施策として、「公共交通の充実」「地域医療体制の充実」があげられます。
- 一方、重要度・満足度がともに高く、方向性や成果が住民ニーズに合致している『安定・拡充』施策として、「水道水の安定した供給」があげられます。
- さらに見ると、30歳代は「子育て支援」の重要度が最も高いなど、回答者の年代や居住地域などによって傾向に違いが見られました。

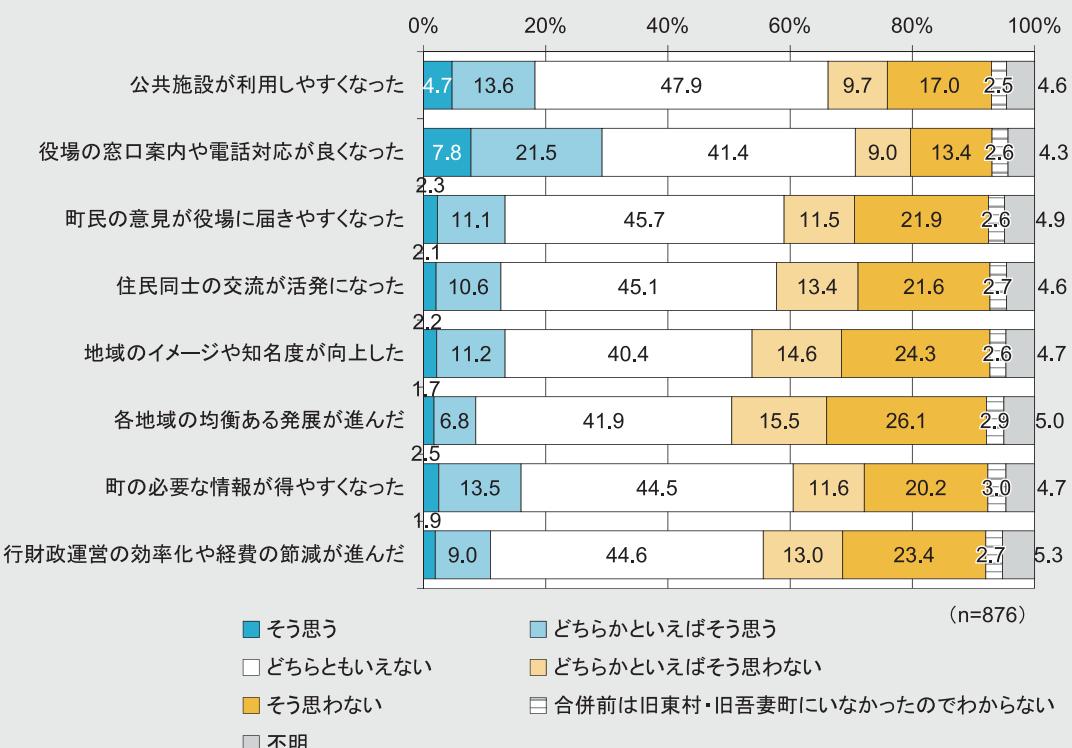


\* 加重平均値：「重要」・「満足」、「どちらかといえば重要」・「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば重要ではない」・「どちらかといえば不満」、「重要ではない」・「不満」にそれぞれ 2 点、1 点、0 点、-1 点、-2 点を与えて求めた平均値。値が大きいほど重要度・満足度が高いと考えられる

※図中の各項目は表現を省略して表示。7種類の凡例は、東吾妻町第1次総合計画における施策体系に基づき分類したもの。いずれも有効回答数 n=876人

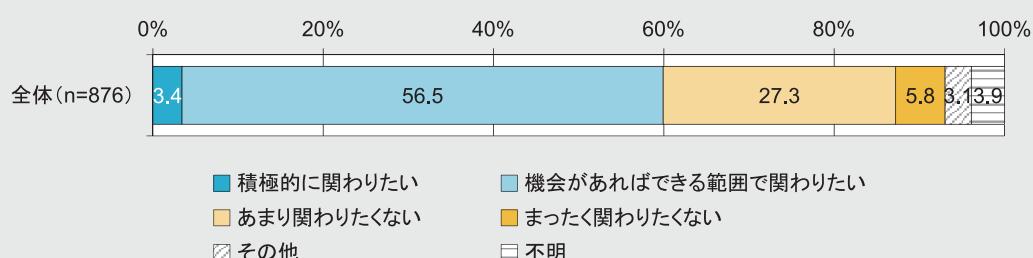
#### ④ 町村合併の効果（それぞれ 1 つに○）

- ・いずれの項目も「どちらともいえない」が最も高くなっています。
- ・「そう思う」は「役場の窓口案内や電話対応が良くなった」(7.8%) が約 1 割で最も高く、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(29.3%) は約 3 割で最も高くなっています。
- ・「そう思わない」は「各地域の均衡ある発展が進んだ」(26.1%) が最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(15.5%) を合わせた『そう思わない』(41.6%) は 4 割以上で最も高くなっています。



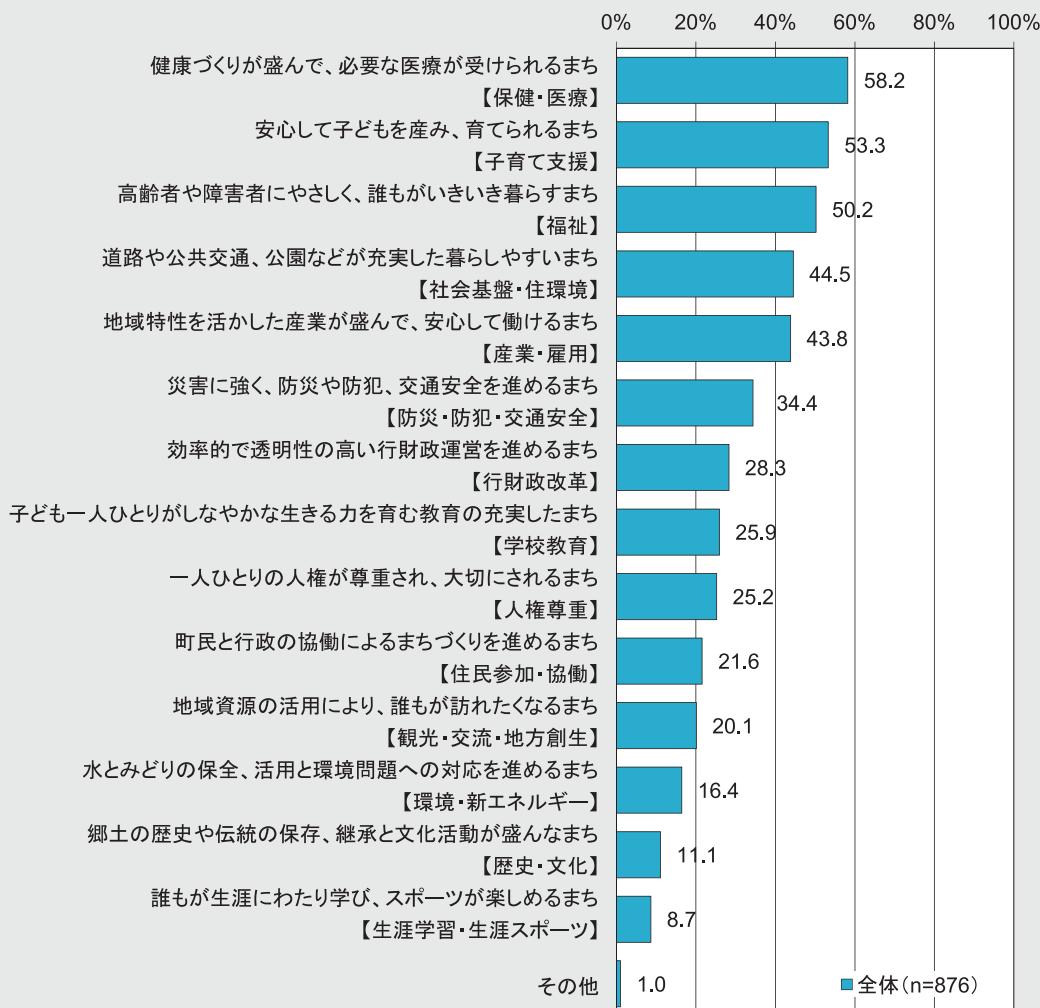
#### ⑤ まちづくりへの関与意向（1 つに○）

- ・「機会があればできる範囲で関わりたい」(56.5%) が 5 割以上で最も高く、次いで「あまり関わりたくない」(27.3%) が約 3 割となっています。
- ・「積極的に関わりたい」(3.4%) と「機会があればできる範囲で関わりたい」を合わせた『関わりたい』(59.9%) は約 6 割、「あまり関わりたくない」と「まったく関わりたくない」(5.8%) を合わせた『関わりたくない』(33.1%) は 3 割以上となっています。



## ⑥ 10年後の東吾妻町はどのようなまちであってほしいか（5つまで○）

- ・「健康づくりが盛んで、必要な医療が受けられるまち（保健・医療）」（58.2%）が約6割で最も高く、次いで「安心して子どもを産み、育てられるまち（子育て支援）」（53.3%）、「高齢者や障害者にやさしく、誰もがいきいき暮らすまち（福祉）」（50.2%）の2項目が5割以上となっています。
- ・さらに見ると、10・20歳代は「道路や公共交通、公園などが充実した暮らしやすいまち（社会基盤・住環境）」、30歳代は「安心して子どもを産み、育てられるまち（子育て支援）」が最も高いなど、回答者の年代や居住地域などによって傾向に違いが見られました。



## ⑦ 東吾妻町のまちづくりへの意見等（自由記述）

- ・回答者の3割以上（265人）から、様々な意見や提案が寄せされました。

## (2) 住民ワークショップ

共通テーマ「まちの魅力とブランド力を高める」と3つのキーワードを設定し、キーワードごとに参加者の班分けを行いました。そして、キーワード（班）ごとに、【誇り・魅力になっているもの・こと】【その誇り・魅力をさらに高めるためにどうしたらよいか】【誇り・魅力にしたいけれどなっていないもの・こと】【それはどうしたら誇り・魅力にできるか】の4項目について、それぞれ意見を出し合いました。

とりまとめた結果の概要は、以下のとおりです。

### 第1班 キーワード：水とみどり、地域の産業【自然資源】

魅力・誇りになっているもの・こと	誇り・魅力にしたいけれどなっていないもの・こと
○岩櫃山	○楓ノ木
○吾妻渓谷	○観光地（水牢、桜並木等）
○箱島湧水	○町施設（桔梗館、キャンプ場等）
○農作物（コンニャク、リンゴ、シイタケ等）	○土産
○岩島麻	○野生動物
○災害が少ない	○二市町村にまたがる名所（八ッ場ダム、榛名湖、浅間隠山等）
○その他（買い物場所、山林、温泉、遺跡、桜、町内企業）	○その他（駅、古民家、空家等）

### 第2班 キーワード：健康づくり、医療、子育て支援【福祉資源】

魅力・誇りになっているもの・こと	誇り・魅力にしたいけれどなっていないもの・こと
○子育て支援	○子育て（にこにこひろばの各地への配置）
○医療（原町日赤病院、健康増進センター）	○医療（原町日赤病院）
○道の駅あがつま峡	○健康増進センター
○歴史・文化（ハート形土偶、真田氏等）	○高齢者対応
○人物（人柄、町出身有名人等）	○町出身の有名人
○特産品（ニジマス、イチゴ、リンゴ等）	○空き地・空き家
○自然（吾妻渓谷、岩櫃山、箱島湧水等）	
○その他（治安、高齢者が元気・暮らしやすい、水仙ちゃん）	

### 第3班 キーワード：学校教育、郷土の歴史【教育資源】

魅力・誇りになっているもの・こと	誇り・魅力にしたいけれどなっていないもの・こと
○岩櫃城・岩櫃山	○教育（統合した中学校、スケート場等）
○岩島麻	○歴史（大戸関所跡、町出身有名人等）
○歴史（ハート形土偶、町ゆかりの人物等）	○自然（桜並木、楓ノ木、不動の滝等）
○自然環境（箱島湧水とホタル、空気等）	○生活（交通、原町日赤病院等）
○生活（買い物が便利、助け合いながら暮らす地域、高齢者が元気、物価が安い等）	○ダム振興（樽沢トンネル、いわびつ汁等）
○八ッ場ダム	

### (3) 関係団体・民間事業者等ヒアリング

町内で事業を展開する各種団体、企業・事業所など「企業町民」の参画や連携を得ることが重要と考え、対象者を選定し、今後10年間のまちづくりについて、意見や知見等をアンケート形式で聞き取りました。

とりまとめた結果の概要は、以下のとおりです。

#### ① 現在の東吾妻町の魅力・特徴

- ・「自然」「安全（災害）」「歴史」などに関する内容が比較的多く見られました。

#### ②-1 「まちの魅力」「ブランド力強化」のために必要なこと

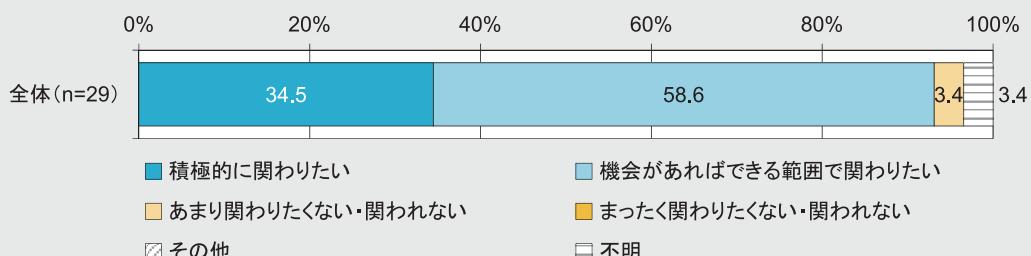
- ・「情報」「施設等ハード整備」「交通」などに関する内容が比較的多く見られました。

#### ②-2 「まちの魅力」「ブランド力強化」のために貴団体として考えられる展開

- ・各事業分野における展開にとどまらず、他団体や他産業との連携、技術やサービスの提供、住民との協働・連携など、様々な内容が見られました。

#### ③ 貴団体の持つノウハウや技術、設備や人材などを活用して、東吾妻町のまちづくりに関わることについて（1つに○）

- ・「機会があればできる範囲で関わりたい」（58.6%）が最も高く、次いで高い「積極的に関わりたい」を合わせた『関わりたい』（93.1%）は9割以上となっています。



#### ④ 「まちの魅力」「ブランド力強化」と、「協働によるまちづくり」を進めるために東吾妻町役場が行政として取り組むべきこと

- ・人口減少への対応、施策や事業の進め方や総合計画の進捗管理、職員の心構えなど、様々な内容が見られました。

## 2 – 3 社会の潮流と東吾妻町の主要課題

### (1) 人口減少社会への対応

本町では、人口減少や少子化・高齢化が急速に進行しており、中学校の統廃合、鉄道や路線バスなどの公共交通体系の変化、遊休農地や耕作放棄地、空家、有害鳥獣被害の増加など、すでに様々な方面で影響が見られます。

人口減少は今後も続くことが予想され、その中の将来を見据えた、地域で支え合い、安全・安心に暮らし続けられるまちづくり、本町に訪れたい・住みたい・働きたい人を増やし、若い世代が安心して結婚・出産・子育てができるまちづくりが必要です。

### (2) 住民と行政の協働によるまちづくり

地方分権が進む中、地方自治体には地域の特性を活かしながら、自らの責任と判断でまちづくりを推進することが求められています。

一方、限られた財源の中で公共サービスを維持するためには、徹底した行財政改革や行政職員の資質向上と意識改革など、行政経営能力の向上が必要です。

「町民アンケート調査」や「関係団体・民間事業者等ヒアリング」では、まちづくりへの関与の意向が強く示され、住民力発揮の可能性がうかがえます。

行政だけでなく、住民や、町内で事業を展開する各種団体、企業・事業所など企業町民が、互いに役割と責任を担い合い、地域の問題や課題に対して、住民力を発揮しながら参画し、協働で取り組むまちづくりが必要です。

### (3) 快適な暮らしを支える社会基盤の整備

住民の快適で安全・安心な暮らしを支えるため、道路、橋梁、都市計画、町営住宅、上下水道など、様々な社会基盤の整備に取り組んできました。しかし、「町民アンケート調査」では、道路や公共交通、公園など社会基盤・住環境に関する高いニーズや各地域の均衡ある発展への強い不満感が示され、住民ニーズや各地域の状況に、より即した社会基盤の整備が求められています。

一方、公共施設の老朽化に伴う維持・更新に要する費用の増加が予想されますが、人口減少を背景に、町の財政状況がさらに厳しくなることも予想されます。

このような状況において、地域間の均衡ある発展と適切な財源の確保を図りながら、過度に起債等の借金に依存しない、公共施設の統廃合、除却、改修、改築など合理化も踏まえた効率的な社会基盤の維持・更新が必要です。

### (4) 上信自動車道やハッ場ダムの整備を見据えたまちづくり

渋川市の関越自動車道から本町を通り長野県の上信越自動車道に向かう地域高規格道路である上信自動車道、多目的ダムとして本町においても関連工事などが進むハッ場ダムの2つの大きな社会基盤の整備により、地域の暮らしや人・ものの動きが大きく変化すると予想されます。国や県、近隣市町村との連携・協力を図りながら、これらの整備後を見据えたまちづくりを進めることができます。

## (5) 豊かな自然環境の保全・活用と循環型社会の構築

豊かな自然環境は、住民共通の誇りであることが「町民アンケート調査」などの結果において示されました。本町が誇る自然環境を貴重な資源として見つめ直し、大切な財産として保全・活用するとともに、次代に継承していくことが必要です。

一方、今日の環境問題は複雑化・深刻化しています。住民一人ひとりが身近な環境問題に関心を持ち、環境負荷の軽減や循環型社会の構築など、持続可能な地域社会の形成を図ることが必要です。

## (6) 地域の活力を支える産業の振興

本町の産業構造を見ると、農業産出額は畜産を中心に県内有数の産地を形成し、製造品出荷額等は大きな工場を中心に郡内トップを維持しています。また、観光面では NHK 大河ドラマ「真田丸」(平成 28 (2016) 年) の放映を機に、岩櫃山や岩櫃城などゆかりの地域資源が脚光を浴び、知名度の向上、観光入込客数の増加へつながりました。

しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足、労働人口の減少や消費規模の縮小が見られ、産業構造の維持が難しくなっています。また、大河ドラマ放映を契機とした観光基盤の整備と新たな展開につなげることが求められています。

企業誘致のような外来型の施策に加え、地域内の経済循環の拡大を図る内発型の施策など、本町の強みを活かした地域産業の振興による、若い世代の転出抑制や転入促進、さらなる知名度向上や競争力強化など、地域活力の創造を図ることが必要です。さらに、住民が働きやすい労働環境を整えるために、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を図ることが必要です。

## (7) 健康で質の高い生活を支える医療・福祉の充実

生涯を通じて心身ともに健康で質の高い生活を送ることは、すべての住民の望みです。

「町民アンケート調査」では、10 年後の本町の望ましい姿として、保健・医療、子育て支援、福祉の 3 項目の充実が特に強く望まれるとともに、現状に対する早急な対策の必要性も示されました。また、「住民ワークショップ」では、原町赤十字病院の重要性が強く示されました。これらは住みやすさに直結する重要な視点であり、子どもから大人までの健康と安心を支える地域医療体制と、高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの充実が必要です。

## (8) まちへの愛着と誇りを育む人づくり

「住民ワークショップ」や「関係団体・民間事業者等ヒアリング」では、本町の魅力や誇りとして自然、歴史などに関する意見が多く見られました。また、まちのブランド力強化についても示されました。

このような視点を活かし、未来を担う子ども達が愛着と誇りを持てるまちにしていくことが、魅力向上や定住促進にもつながると考えられ、様々な地域資源を改めて見つめ直し、まち全体の魅力や誇りとして磨き上げ、これを教育の場で活かせる体制や環境を整えることが、人づくりとして重要です。



桜並木と水仙畑

# 2

## 第2部 基本構想

---

# 第1章 東吾妻町の将来像

## 1 – 1 目指す将来像

「東吾妻町第1次総合計画」で定めたまちづくりの理念と町の将来像を継承し、今後10年間で目指す将来像を次のように定め、本計画の展開を図ります。



また、この将来像の副題として、平成27（2015）年4月に町内5校の統合で開校した東吾妻中学校の校歌の一部を引用しました。

これを本町の未来を担う子ども達へのメッセージとともに、住民と行政が目指す将来像を共有し、「協働」で取り組むまちづくりの合い言葉とします。

東吾妻町立東吾妻中学校 校歌  
作詩 高木あきこ  
作曲 若松 歓

明るい風にゆれる	きらめく川に浮かぶ
一面の 水仙の花	遠い日の 先人の夢
ひろがる空には あふれる光	そびえる大樹が 伝える歴史
光をつかもう この手で	理想をめざそう ここから
<b>東吾妻 きみと あなたと</b>	<b>東吾妻 きみと あなたと</b>
学び合い いきいきと	きたえ合い たくましく
明日への思い 育んで	誇りを胸に のびやかに

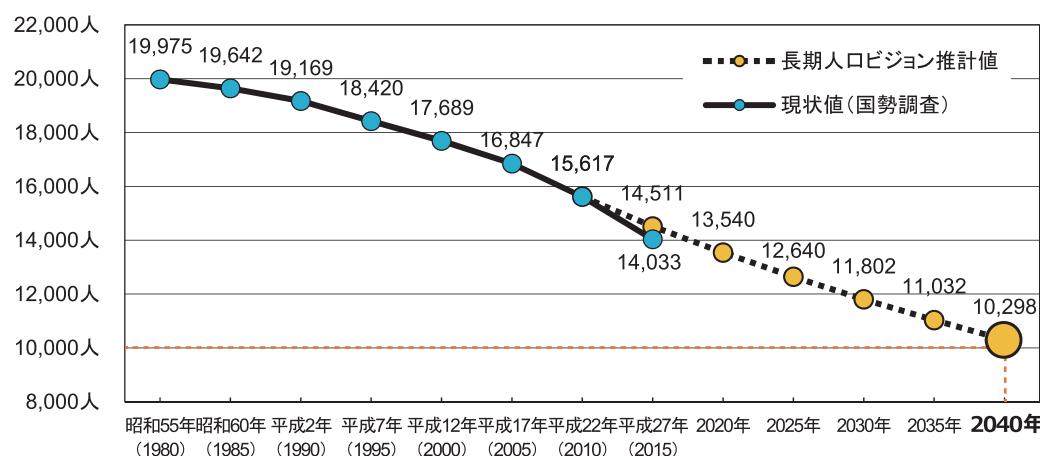


▲校歌を斉唱する東吾妻中学校の生徒達

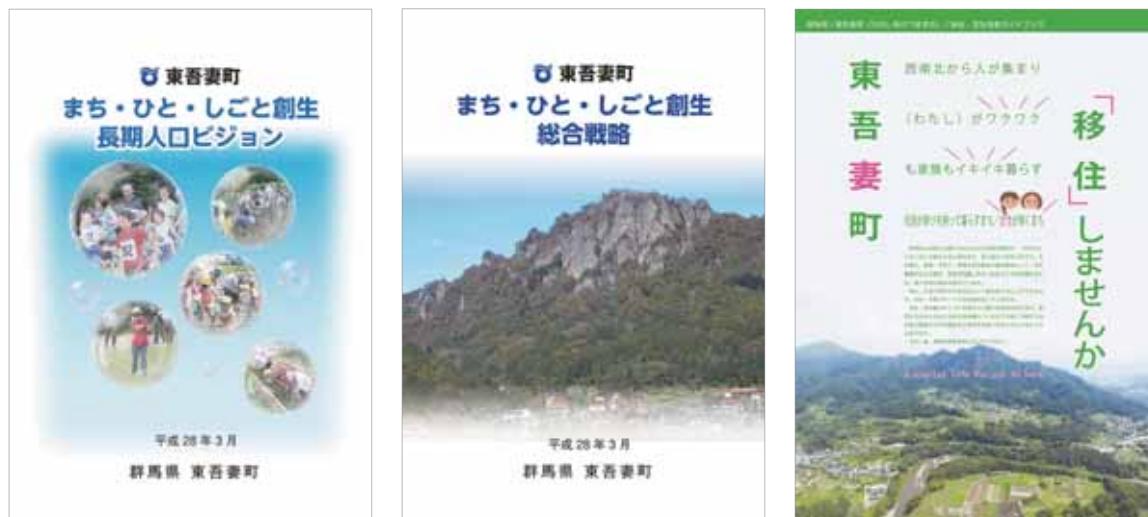
## 1 – 2 人口の将来展望

本町で生まれる子どもの数（出生数）は、平成 21（2009）年頃から大きく減少しており、総人口も昭和 25（1950）年以降、減少傾向が続いています。

このような状況の中、本町の目指すべき将来人口目標として、平成 28（2016）年 3 月策定の「東吾妻町まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン」に示した、**2040 年における 1 万人の人口維持**を実現するため、出生率の向上や移住・定住の促進など、人口減少の速度を緩和する各種施策を一層推進するとともに、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりを進めます。



資料：東吾妻町まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン。平成 27（2015）年の現状値は国勢調査



▲「東吾妻町まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン」と「東吾妻町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成28（2016）年3月策定）

▲「東吾妻町移住・定住促進ガイドブック」（平成29（2017）年作成）

# 1 – 3 財政の将来推計

本町では、平成 18（2006）年の町村合併以降、行財政改革を推進し、職員の定員管理の適正化（56 人減）、地方債の繰上償還（27億円減）、積立基金残高の増加（19億円増）など、財政の健全化に取り組んできました。

今後 10 年間も人口減少社会への対応など、社会経済情勢や住民ニーズに即したまちづくりを進めるとともに、行政経営能力の向上と財政基盤の強化を目指します。

財政の将来推計（普通会計）

（単位：百万円）

		平成 28 年度 (2016) 決算	平成 29 年度 (2017) 見込	2022 年度 5 年後見込	2027 年度 10 年後見込
歳 入	歳入一般財源	5,525	6,128	5,226	5,123
	うち町税	2,052	1,916	1,917	1,864
	うち地方交付税	3,159	3,019	2,946	2,895
	国・県支出金	929	910	778	702
	繰入金	136	140	89	67
	地方債	690	1,272	842	837
	うち臨時財政対策債	272	283	273	260
	その他	1,185	112	827	948
	歳入合計	8,465	8,562	7,762	7,677
歳 出	義務的経費	3,447	3,308	3,434	3,148
	人件費	1,481	1,473	1,481	1,481
	扶助費	877	767	837	798
	公債費	1,089	1,068	1,116	868
	投資的経費	1,097	1,632	640	624
	その他の経費	3,620	3,243	3,339	3,345
	物件費	1,133	963	1,056	1,004
	補助費等	1,197	1,105	1,162	1,105
	繰出金	878	906	919	912
	その他	411	269	203	324
歳出合計		8,163	8,183	7,413	7,116

収支(歳入歳出差引)	301	379	349	560
------------	-----	-----	-----	-----

各種 残 高	地方債 残高	10,203	10,505	10,288	8,142
	うち臨時財政対策債	3,944	3,977	3,930	4,083
	積立基金 残高	4,859	4,942	5,016	5,944
	うち財政調整基金	2,295	2,472	3,343	4,491

※臨時財政対策債について、國の方針では臨時財政対策債は 2019 年までとなっているが、この表では 2027 年度まで継続するものとして推計している

※普通会計とは、総務省が実施する地方財政状況調査において一定の基準に従って調整した会計。本町においては一般会計及び地域開発事業特別会計のうち情報通信事業に係るものと、また、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療の特別会計に係る人件費相当分を除くなどの調整を行っている

資料：東吾妻町

## 1 – 4 土地利用方針

土地は、現在及び将来における住民の財産であるとともに、安全で快適な住民生活や豊かな社会活動を行っていく上での基盤となるものです。

本町は、 $253.91\text{km}^2$  の広大な町域を有し、そのうち森林面積が約 8 割を占める中山間地域です。近年では、上信自動車道の整備など国や県の広域的な事業が進んでいます。

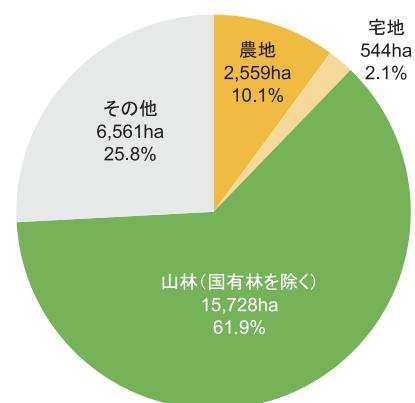
土地利用にあたっては、自然、社会、経済及び文化的な諸条件等に十分配慮し、農業的 土地利用と自然的土地利用の調和を図りながら、長期的展望に基づき、適正かつ合理的なものとなるようまちづくりを進めます。



資料：東吾妻町



▲吾妻川において建設工事が進む八ヶ場ダム



▲土地利用の状況（平成29年度）

資料：群馬県市町村要覧

# 第2章 政策の大綱

## 2-1 まちづくりの基本目標

目指す将来像を実現するため、以下の7つをまちづくりの基本目標とします。

### 基本目標1 みんなで創る協働のまち【住民と行政の協働】

住民と行政、住民同士が互いの役割と責任を自覚し、理解・尊重し合い、地域の問題・課題の解決や地方創生に取り組む、住民と行政の協働のまちを目指します。

### 基本目標2 安全で暮らしやすいまち【社会基盤の整備】

人と自然に優しく、安全・安心で「暮らしたい」「暮らし続けたい」と思える快適な暮らしを支える、社会基盤が充実したまちを目指します。

### 基本目標3 自然と調和した暮らしができるまち【生活環境の向上】

豊かな自然環境の保全と活用、環境課題への取り組みを進め、自然と調和した暮らしができる、生活環境が充実したまちを目指します。

### 基本目標4 地域の恵みを活かした活力あるまち【産業の振興】

地域の豊かな資源を活かし、安定した雇用と新たな視点での産業の創出、ブランド力の強化によって活力が生まれる、産業の振興が進むまちを目指します。

### 基本目標5 元気な声と笑顔があふれるまち【保健・医療・福祉の充実】

住民が健康づくりにはげみ、支え合い、安心して暮らし続けられる、保健・医療・福祉・子育て支援が充実したまちを目指します。

### 基本目標6 豊かな心を育む学びのまち【教育・文化の充実】

子ども達の豊かな心を育むとともに、住民が生涯にわたって学び、スポーツを楽しみ、地域の歴史を継承する、教育・文化施策が充実したまちを目指します。

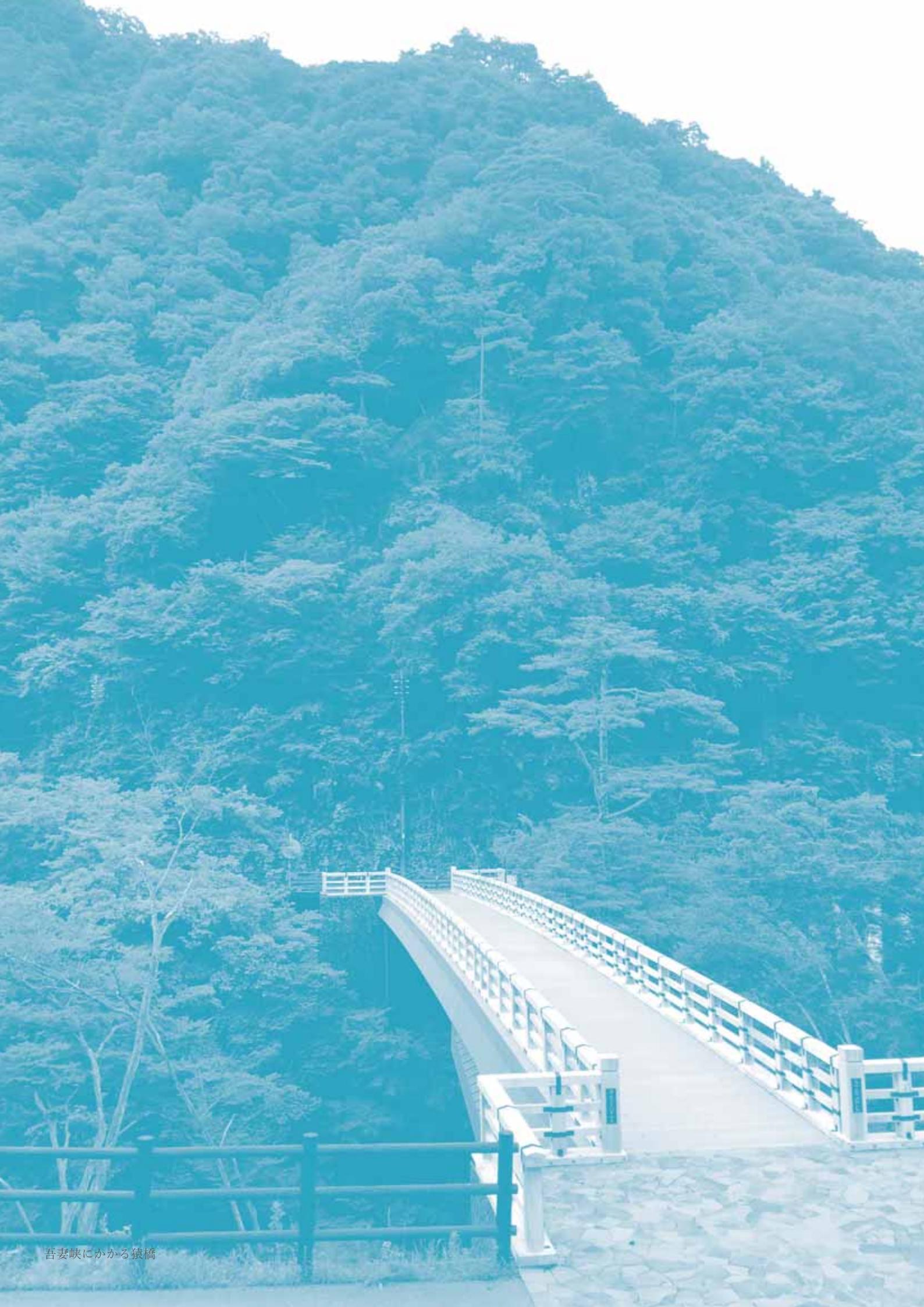
### 基本目標7 健全財政に向け徹底した改革に取り組むまち【行財政改革の推進】

将来に向けて発展を続けられる自立した財政基盤と行政経営の確立に向け、行財政改革に一貫して取り組むまちを目指します。

## 2－2 施策の体系

目指す将来像を実現するためのまちづくりの基本目標と、それに対応する基本施策を以下のように設定します。





吾妻峠にかかる猿橋